

県立大学の設置検討

3月は出会いと別れの季節。卒業を迎えた大学生や高校生などは次なるステージに向けて準備をしている頃だろう。

その中で、三重県にとって少し残念なデータがある。2020年度の学校基本調査によると、県内の高等学校を卒業した大学進学者のうち、約8割が県外の大学へ進学している。また、大学進学時の流入・流出率（下の図参照）は全国44位。若者の県外流出を防ぎきれていない現状で、低水準になっている。

これを受け三重県は、若者の県内定着の促進を目的に、県内での学びの選択肢を拡大するため、県立大学の設置を検討している。その一環として今年度は、県立大学の設置ニーズについて、県内の高等学校に通う二年次の生徒とその保護者に対し、調査を実施した。県立大学が設置された場合の進学希望については、生徒の49・2%、保護者の82・0%が「進学先の候補として考える」と回答し、一定のニーズがあることが分かった。

また、新型コロナの感染拡大も進学・就職の意向に影響を与えている。同調査にて、進路選択における新型コロナの感染拡大の影響があったと回答した人のうち、県外よりも県内への進学・就職を希望するようになったとの回答が、生徒は34・3%、保護者は46・9%であった。加えて、就職情報会社「マイナビ」が22年度卒業の大学生を対象に行った調査では、地元への就職を希望する生徒が5年ぶりに微増に転じるなど、地元志向の高まりが感じられる結果となった。一方で、コロナ禍では、オンライン授業の進展により、県外の大学に進学しても、自宅にいながら受講するケースもみられる。生活拠点を移さずに進学する新たなスタイルは今後の大学進学の実現に影響を与えそうだ。

県立大学設置に向けては、来年度以降さらに検討が進められる。今後の動向を見守りたい。

（コンサルティング事業部 調査グループ 研究員 岡澤 初樹）